

小 学 校 高 学 年	テーマ	限りがある命		
	ねらい	命あるものにはすべて終わりがある。自然現象を見つめ、命の有限性を実感する。		
	指導のポイント	事前	学習・体験	事後
	<p><b>【感動の体験】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の命は両親の願いの結晶であり、毎日を精一杯生きることが大切であることを実感させる。</li> <li>死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感させる。</li> </ul> <p><b>【感性を育む】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>震災や、交通事故、病気で亡くなった子どもについての話から、命の重みを感じさせる。</li> <li>遺された者の悲しみをとおして、命は一人だけのものではなく、つながっているということを実感させる。</li> </ul> <p><b>【想像力の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての生き物には寿命があり、自分の命も例外でないことを理解させる。</li> <li>生きているということは当たり前前のことではなく、素晴らしいものであることを認識させる。</li> <li>仮想現実での死と現実の死とは全く別物であることを理解させる。</li> </ul>	<p><b>【先生の準備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中だけでなくすべての教育活動の中で、命を大切にしていこうとする視点や姿勢を持つ。</li> <li>教員自身の命の有限性に対する思いをまとめる。</li> <li>教員が現在の子どもの遊びの文化をまず体験し、子どもたちが接するマンガやアニメ及びゲーム等について知っておく。</li> <li>インターネット上の有害情報やテレビゲームの有害性、情報モラルについて理解を深める。</li> <li>現在悲嘆にある子どもが存在する可能性もあるので、個別に話を聞く時間を設定するなど、事前事後の個別指導を充実させる。</li> <li>家庭との連携の上、学習や体験内容に配慮する。</li> <li>子どもたち一人ひとりを把握し、学級内の人間関係を掌握しておく。</li> </ul> <p><b>【教育課程上の位置づけ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理科</li> <li>道徳</li> <li>総合的な学習の時間</li> </ul> <p><b>【子どもたちの準備】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ノーゲームデーを体験する。</li> <li>自尊感情を高める体験をする。</li> </ul> <p><b>【家庭・地域との連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メディアの中の暴力や死の表現について家庭での話し合いをとおして、親から子への命に対する力強いメッセージを依頼する。</li> <li>配慮を要する子どもには家庭との連携を密にする。</li> </ul>	<p>命の探検</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校庭に出て子どもたちにデジタルカメラで「命」をテーマに自由に写真を撮らせ、発表させる。</li> <li>死んだ昆虫等を見せ、命について考えさせる。</li> <li>「年齢ものさし」づくり</li> <li>思い出の絵や写真を貼って小学校6年間を振り返る「年齢ものさし」をつくり、一生の長さを考える。</li> <li>家族との話し合い</li> <li>自分を大切に育ててくれた家族が一番悲しむことについて考え、話し合う。</li> <li>ペットの死や家族の病気、弟妹の誕生など「命」について深く考えたことを振り返る。</li> <li>写真や本に基づく話し合い</li> <li>動物の死</li> <li>写真集『死』宮崎学（平凡社）</li> <li>絵本『のにつき 野日記』（アリス館）</li> <li>病気による死</li> <li>『種まく子どもたち』（ポプラ社）</li> <li>震災による死</li> <li>『明日に生きる』（兵庫県教委）</li> <li>「12時にサイレンが町中に響いた」「悲しみを乗り越えて」</li> <li>ゲストティーチャーの話</li> <li>獣医や動物園関係者、自然観察指導員など自然界で生と死に接している人の話</li> <li>震災や病気などで子どもを亡くした保護者やNPO及び医療関係者の話</li> <li>情報モラルに関するビデオ学習</li> <li>『姿なき侵入者』</li> <li>『虚構への落とし穴』</li> <li>『虚構からの誘惑』</li> </ul> <p style="text-align: right;">（財団法人 警察協会）</p> <p>ノーゲームデーの実施</p>	<p><b>【子どもたちの予想される心の動き】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年をとったら、人は必ず死ぬんだ。</li> <li>子どもが死ぬことは親にとってすごくつらいことなんだ。</li> <li>自分の命が大切なと同じように、回りのみんなの命も大切なんだ。</li> <li>死んだ命はよみがえらないんだ。</li> </ul> <p><b>【振り返りカードへの記入】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習・体験の後に、子どもたちに自分の心の動きを振り返らせ、振り返りカードに記入させる。</li> </ul> <p><b>【日常生活での実践・家庭との連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材及び子どもの感想などをまとめて家庭に配布するなど、授業の成果を知らせ、親子の対話を依頼する。</li> <li>子どもの存在そのものが大切であるという明確で強いメッセージを依頼する。</li> <li>子どもたちがわくわくするような自然体験等を数多くさせる。</li> <li>芸術鑑賞などで、感動体験をさせる。</li> <li>日常の生活習慣を振り返る。</li> </ul> <p><b>【先生の振り返り】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>命の有限性や死の普遍性・絶対性を認識させることができたか。</li> <li>死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感させることができたか。</li> <li>命は一人だけのものではなく、つながっているということを実感させることができたか。</li> <li>子どもたち一人ひとりの心の動きを十分にとらえることができたか。</li> <li>虚無感や死に対する過度の恐怖心を抱かせることはなかったか。</li> </ul>